

みんなで「ケナフの種まき」をりました。～灘中央地区まちづくり協議会～

環境にやさしいまちづくり

最近地球温暖化問題が叫ばれ、どの植物よりも二酸化炭素を多く吸収することで注目されている「ケナフ」。そのケナフを活用して、環境にやさしいまちづくりをまちづくり協議会と小学校がいっしょになって取り組んでいます。

先日、6月12日(月)に、稗田小学校となかよしランド(スポット創生事業による公園)で、ケナフの種まきを実施しました。

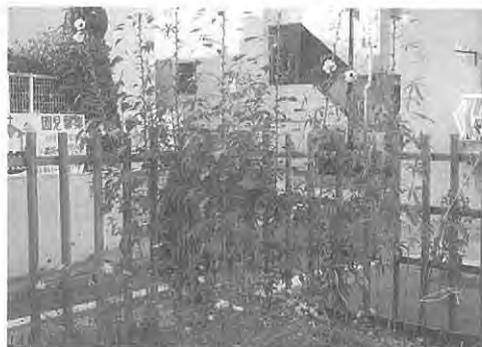
ケナフとの出会いは、なかよしランド内に手作り花壇をつくった際、土地所有者である中井病院の中井さんが植え始めたのがきっかけで、今年で3年目を迎えました。

刈り取った後、紙になるのを知って「はがきをつくらう」ということになりました。協議会に稗田小学校PTA会長がおられたのが縁で、稗田小学校エコロジカル委員会(環境を目的としたクラブ活動)といっしょに紙すきをしました。それから2年が経ち、今年はPTAの行事として、小学校とまちづくり協議会が協力して行うことになりました。



今年の種まきの様子(稗田小学校)

当日は、PTA役員、校長、教頭先生、エコロジカル委員会顧問の先生と児童、まちづくり協議会や国際ソロプチミスト神戸等、約20名が小学校で、前もって発芽させたケナフの種をプランターにひとつひとつ子どもたちがていねいにまきました。また、なかよしランドでは、花壇の一部分と広場に小さな穴を開けて



種をまきました。秋にはハイビスカスに似た花が咲きます。灘中央の風物詩となりつつあるケナフ。ただ、紙をつくるだけでなく、地域と学校、そしてPTAがいっしょに取り組むきっかけにもなっています。今後のまちづくりの一例になるのではないのでしょうか。

【ケナフの種まき参加団体】

- ・ 稗田小学校エコロジカル委員会
- ・ 稗田小学校PTA
- ・ 国際ソロプチミスト神戸(奉仕団体)
- ・ 灘中央地区まちづくり協議会



今年の種まきの様子(なかよしランド)

第4期こうべ市民安全まちづくり大学 受講生募集のお知らせ

神戸市では、市民の皆さんが安全について学び、地域の安全なまちづくりに生かしていくための場として、昨年度に引き続き、「こうべ市民安全まちづくり大学」を、神戸大学都市安全研究センター、こうべまちづくりセンターとの共催で開催します。

講座を修了した第1期生のうち50名、第2期生のうち58名、第3期生のうち54名、合計162名の方が市民安全推進員として登録されました。推進員の中には、現在地域において「安全で安心なコミュニティ活動」に取り組まれている方もいます。皆さんもぜひ本校を受講して、この安全で安心なコミュニティづくりの輪の中に加ってください。

今年度も、次の2つの講座を開講します。

①入門講座のプログラム(予定)

防災や防犯についての講演・まちづくり実践者による活動報告等により、専門的知識を習得する講座です。

(定員130名、無料)

◇日時：9月から3月の毎月第1火曜日 午後6時30分～8時45分。(全7回)

◇場所：神戸市教育会館(中央区中山手通4-10-5、TEL. 222-4111)

日程	講演テーマ・講師	実践報告など
1 9月5日 (火)	「安全で安心なコミュニティづくりを進めるために」 室崎 益輝 氏 (神戸大学都市安全研究センター教授)	《活動報告》
2 10月3日 (火)	「災害の恐ろしさ」 河田 恵昭 氏 (京都大学防災研究所教授)	○地域のまちづくりリーダー
3 11月7日 (火)	「いざという時に備えて～危機管理の心」 林 春男 氏 (京都大学防災研究所教授)	○まちづくりコンサルタント
4 12月5日 (火)	「神戸で再び大地震は起こるのか?」 石橋 克彦 氏 (神戸大学都市安全研究センター教授)	○防災福祉コミュニティのリーダー
5 1月9日 (火)	「ライフラインは大丈夫か?」 高田 至郎 氏 (神戸大学工学部教授)	《事例報告》
6 2月6日 (火)	「安全・安心まちづくりの推進にむけて」 小出 治 氏 (東京大学工学部教授)	○兵庫県警察本部 ～神戸における犯罪の傾向について～
7 3月6日 (火)	「神戸の土砂災害について」 沖村 孝 氏 (神戸大学都市安全研究センター教授)	○ライフライン事業者等

②まちづくり講座のプログラム(予定)

地域で住民の皆さんとともに楽しみながら安全なまちづくりを進めていくためのいろいろな手法を身につける、参加型の講座です。(定員50名、無料)

◇日時：9月から2月の毎月第3火曜日 午後6時30分～8時45分。(全6回)

◇場所：こうべまちづくり会館(中央区元町通4-2-14、TEL. 361-4523)

日程	テーマ	内容
1 9月19日 (火)	地域の課題について考えてみよう	地域の課題やみんなが参加できるイベントは何か等、まちづくりに関することを話し合います。
2 10月17日 (火)	いろいろな角度からまちをみてみよう	安全マップづくりの前にいろいろな眼でまちをみてみましょう。
3 11月21日 (火)	コミュニティ安全マップをつくろう①	みんなで一緒にまちを歩けば、思いがけない発見があります。地域の危険や役立つ資源を探して、工夫を凝らした楽しいマップを作ります。(本講座の間に、実際にまちを歩いてみることも予定しています。)
4 12月19日 (火)	コミュニティ安全マップをつくろう②	
5 1月16日 (火)	コミュニティ安全計画を考えよう	これまで学んできたことを生かして、地域のみんで作る安全計画を考えます。
6 2月20日 (火)	安全で安心なまちづくりを考えよう	最後に、安全で安心なまちづくりをどう具体的に進めていくか、みんなで考えます。

両講座とも修了した人のうち希望者は、「市民安全推進員」として登録し、地域の安全なまちづくりにご活躍いただきます。

また、次年度に予定している、推進員対象の上級コースを受講いただくこともできます。受講を希望する方は、右の事項をはがきを書いてお申し込みください。

7月28日(金)必着です。多数のご応募をお待ちしています。

■お問い合わせは、

神戸市 市民局 市民安全推進室 安全企画課

TEL (078)322-6238

50
円

650-8570
神戸市中央区
加納町六丁目五十一
市民安全推進室安全企画課行

○住所
○氏名(ふりがなも)
○年齢
○性別
○電話番号
○職業
○希望講座
(両方とも申し込むこともできます。)

(おもて)

(うら)

複雑系とまちづくり (3)

●創発とボトムアップ

前2回でみたように、多数の要素がお互いに関わり合うことにより全体をかたちづくる時、例えば人間が関わり合うことでコミュニティを形成する場合、人間同士の関わり合いかたの違いで、コミュニティ全体の様相は違ったものになる。それらは、[秩序]、[カオスの縁]、[カオス(混沌)]に分類できる。

筆者は'99にカリフォルニアでNPOによるまちづくりを視察し、複雑系研究のメッカであるカリフォルニア研究所を訪れて、Dr. Wensche という学者に教えられたのであるが、専制独裁国家や経済独占、縦割り社会は[秩序]の世界であり、無政府状態、スラム、学級崩壊、震災直後のまちなどは[カオス]の世界であるという。また、[秩序]と[カオス]の間にある[カオスの縁]は「豊穡の源」であり、そこでは予想もしない複雑な構造が突発的に、自己組織化(自発的・自律的に発現)し、こういった現象を「創発(Emergence)」と呼んでいる。

長期間安定していた生物種が突然変異して新種を作り出したり、人類が20万年前突然に言語を獲得したり、バブル発生やIT革命などが「創発」現象である。

また、震災直後の避難所で「コミュニティのユートピア」が「創発」したといわれている。

こういった「創発」や、自己組織化の特徴は、ボトムアップの現象(下からの積上げ)であり、設計やプログラムによるトップダウン(上からの指示・強制)の現象ではないということを強調しておきたい。

また、こういった知見は、パソコンの発達をもたらしたものであり、'80末になって人類が初めて知ったことである。例えば受精卵の中には小さく折りたたまれた設計図などはない。受精卵の中の遺伝子は設計図ではなく規則群である、受精卵から器官が発生し胎児となる過程は自己組織化であるが、こういった現象は、つい最近までは「神の所作」と考えられてきた。

●ボトムアップのまちづくり

カリフォルニア都市計画局のBauman氏と一緒に、ウォータワラのPotrero地区住民のまちづくりワークショップに参加したときも、Bauman氏は“Not top-down, but bottom-up”としきりに言っていたのが印象的であった。

米国人は、幼少時から、個人として自立することを教えられ、初等教育から議論やプレゼンテーションの訓練を積んでいるため、ワークショップ等での意見のまとめや発表が上手である。また、移民以来の米国の伝統である、社会的課題を自分達の問題としてNPOを作ってやっていく、そして、NPOでできないことは政府をつくってやっていくという歴史的経過も、実にボトムアップな

ものである。このようにNPOが活発に活動できているのも、米国市民社会が「カオスの縁」にあり、ボトムアップによる「創発」と、適切かつ行き過ぎないトップダウン施策の絶妙な組み合わせにあると見た。

神戸市でも'99年は、震災の5ヶ年総括・検証で、市民・職員・専門家入り乱れてワークショップを数多くこなした。はじめは皆なんとなく不慣れであったが、最近はこなれてきたなという印象をうける。ボトムアップもやり始めればなんとかなるのである。

●光と闇、秩序とカオス

熱力学に出てくるエントロピー(E)というもののさしについてもふれたい。ここでは簡単に「無秩序さ」をあらわす指標であると理解してほしい。

秩序だった状態とはE値が小さい状態であり、無秩序(つまりカオス)とはE値が高いということである。複雑系の3相をE値が低い順に並べると、[秩序]、[カオスの縁]、[カオス]となる。

ここで、コミュニティの基本要素である人間に着目すると、人間は、生命を維持するため、低エントロピーを、食物や娯楽として体内(脳内)に取り入れ、高エントロピーを体外に捨てている。人間が低いエントロピー状態にあるということはすなわち衣食住などが満ち足りている状態である。人間の死はエントロピーの極大を意味する。従って人間は、基本的には低エントロピー即ち「秩序寄り」を好む。しかし、人間が創造的活動状態のときは、彼のエントロピー状態は低くもなく高くもない状態にあるに違いない。「寝食を忘れて…に打ち込む」という表現はまさに当たっている。その時彼は、カオスの縁にいる。

古来よりの宗教・思想では、世界の様相としては、[秩序]と[カオス]の2種類しか認識されておらず、肝心の「カオスの縁」については「神」とか「見えざる手」とか呼ばれ、分析の対象から外れていた。さらに、秩序=光・善・天国、カオス=闇・悪・地獄という直感的イメージから、「カオスを打ち払って秩序をもたらすのが良いことであり正義だ。」と、ほとんどすべての人が誤解してしまった。

法秩序が貫徹された極端な[秩序]都市像を描いてみよう、「奇麗に整備されたまち、その中心のガラス塔に法典が設置され、住民はゼロである。従って法を犯す人間はいない。設備も使われないので減耗しない。ああ完璧なまちだ。」Dr. Wenscheによれば、[秩序]世界とは逆に死の世界であると論じている。

森田 拓也(市民局市民活動支援課主査)

‘KOBESpeaks 21c.’フォーラムⅣ

入場無料

光のフォーラム

神戸の夜を彩るのは「光」

「光」はわたしたちに「やすらぎ」、「希望」、「夢」・・・を与えてくれます。
 そんな大切な「光」を改めて見直し、21世紀に向け、神戸をもっと楽しくもっと美しい魅力的な街にしたい。
 そして、心から誇りに思い、みんなに自慢できる街にしたい。
 そんな思いを込めて、みんなで「光」について考えて見ませんか。
 テーマは「いっしょに創ろうよ!!光都・こうべ」です。

・とき 2000年7月22日(土) Pm4:00~Pm6:30 (開場, Pm3:30)

・ところ 神戸朝日ホール

プログラム(予定) ◆市民提案発表、写真コンクール表彰等

◆基調講演 「都市の景観照明について」 面出 薫氏(照明デザイナー)

◆パネルディスカッション「光都・こうべを100倍楽しむために」

パネリスト 日比野 克彦氏(アーティスト) 他

申し込み 神戸21世紀・復興記念事業事務局、光のフォーラム係

Tel 078-327-0782・Fax 078-327-0785 (月~金の9時~17時)

E-mail: staff@kobe2001.or.jp

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
6月29日(木)~7月4日(火)	三滴会こうべ書道展	国川 善祥
7月6日(木)~11日(火)	神戸愛写道写真展	神戸愛写道
7月13日(木)~18日(火)	第5回PPA展(写真)	PPA職業写真家組合
7月27日(木)~8月1日(火)	第8回欣洋会作品展(油彩)	欣洋会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

7月1日(土)~31日(月)	神戸の河川展	建設局下水道河川部
7月9日(日) 午後2時・4時	パチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アスク音楽院 こうべまちづくりセンター

図書販売のお知らせ

コンパクトシティ持続可能な都市形態を求めて	¥3,000	別途送料を申し受けます。
協働のまちづくりすまいづくり	¥1,500	申し込みは、当センターまで

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
 (こうべまちづくり会館 3F)
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時~午後5時
- 土・日・祝日は
 まちづくり相談コーナー で受け付けます
 (こうべまちづくり会館4F)
 時間は、午前10時~午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
 会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
 受付:午前10時~午後6時(水曜・年末年始は休館)
 電話 078-361-4565



「あーばんとーく」では、これからも皆様に親しまれるニュースを提供したいと考えております。
 読者の皆様からのご意見、まちづくりに関する耳寄りな情報、まちの話題等の投稿をお待ちしています。